

石山さん Ishiyama-san

情報が即時的に流れ続ける現代においてはその真偽の判別はますます困難になってきている。そしてその判別もままならないままに一部の人々は時に憎悪や差別感情の発露をする。このような現代における状況は通史的に見れば特異な現象では決してない。かつてこの国において誤った情報を元に偏見と差別を受け、排除され続けてきた人々が存在した。ハンセン病の人々である。

現在においてはハンセン病は感染力が非常に弱く、もし感染したとしても適切な治療を受けることによって後遺症も残ることなく完治するものとして世間に認知されている。しかしかつてハンセン病はコレラやペストと同じような恐ろしい伝染病と考えられていた。そして 1930 年代からは官民一体となってハンセン病と疑いのある者をハンセン病療養所に収容する無癩県運動までもが行われるに至った。無癩県運動の実態はハンセン病患者と疑わしき者を通報し、人里離れた施設に強制収容し、終生隔離するというものであった。強制収容された人々は故郷を追い出され、家族とも離れ、療養所とは名ばかりの強制隔離施設で暮らさざるをえなくなっていた。そしてこのようなハンセン病患者の絶滅を支持した政策である「らい予防法」が廃止されたのは 1996 年のことである。国による排除の歴史は 1907 年の「癩予防ニ関スル件」の制定からはじまり 90 年が続っていた。しかも 1907 年当時の時点でハンセン病の感染力が非常に弱いことは判明しており、そして 1940 年代には特效薬が開発されていたのにも関わらずである。なぜこれほどまでにハンセン病患者に対する暴力が社会で許され続けてきたのだろうか。絶対的な暴力に晒され続けてきた彼らの存在は、暴力を振るい続けてきた者たちの写し鏡となり、その姿を浮かび上がらす。ハンセン病が完治した方をハンセン病回復者と呼ぶが、果たして本当に回復すべきは誰なのか。問題の本質はここにあるのではないだろうか。これは決して過去の問題ではなく、今も尚形を変えながら続いている問題である。

私はこのような差別と排除を強いられた中で生き抜いたある 1 人の方と出会った。私はその方の話を聞き、その記憶を映像に残したいとお願いした。そして彼と一緒に追い出された故郷や隔離されていた施設を 2 人で旅して回った。差別と排除の中で生きることを手放さなかった彼の声に耳を傾け、記憶の風景を共に歩き見つめた。これはその記録である。



川田淳 Jun KAWADA

1983 年埼玉県生まれ。2007 年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。沖縄で戦没者の遺骨を掘り続ける男性の手伝いをし遺留品の持ち主の遺族を探し求める作品や、中国と沖縄で戦争体験をした元日本兵の証言を記録した作品等、映像作品を中心に制作している。主な個展に「終わらない過去」（東京都、2015 年）。近年では他に「美しければ美しいほど」（原爆の図 丸木美術館、2017 年）、「国立奥多摩映画館」（国立奥多摩美術館、2016 年）「DMZ Pilgrimage」（South Korea DMZ Piece-Life Hill、韓国、2015 年）「When the Wind Blows / 風が吹くとき」（Millennium Court Arts Centre、北アイルランド、2015 年）等に参加。

証言：石山春平

字幕翻訳：小西智恵

撮影・録音・編集：川田淳

映像 45 分

協力：石山絹子

小出博之

国立ハンセン病資料館

神山復生病院記念館

国立ハンセン病資料館

The National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13

Tel.042-396-2909 | <http://www.hansen-dis.jp>

アクセス

・西武池袋線清瀬駅南口から西武バス 久米川駅北口行き約 10 分
「ハンセン病資料館」で下車

・西武新宿線久米川駅北口から西武バス 清瀬駅南口行き約 20 分
「ハンセン病資料館」で下車

・JR 武蔵野線新秋津駅から西武バス 久米川駅北口行き約 10 分
「全生園前」で下車、徒歩 10 分
(新秋津駅から徒歩の場合約 20 分)